

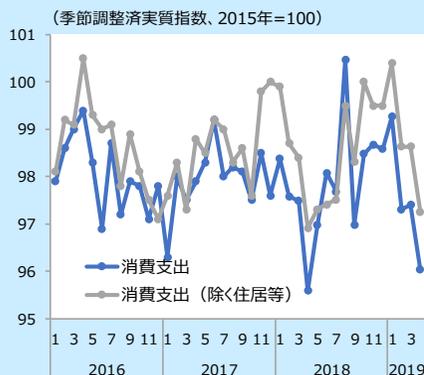
# 日本：消費関連指標（2019年4月）

## — 消費の増勢は弱まる —

# MRI Daily Economic Points

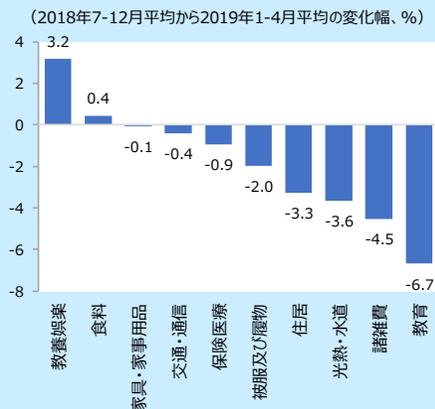
## June 7, 2019

図表1 実質消費支出（季調値）



注：二人以上の世帯。2018年1月および19年1月は変動調整値の伸びを用い、当社にて延伸。  
出所：総務省「家計調査報告」

図表2 品目別内訳寄与度



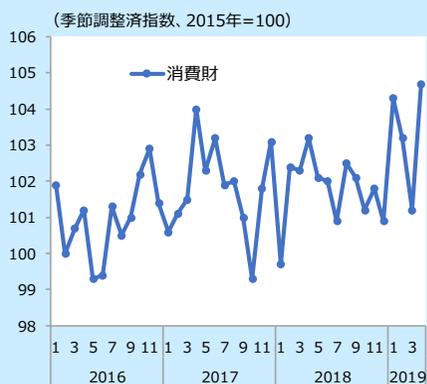
注：二人以上の世帯、季節調整済実質指数の変化。  
出所：総務省「家計調査報告」

図表3 平均消費性向



注：二人以上の世帯のうち勤労者世帯。  
出所：総務省「家計調査報告」

図表4 消費財出荷指数



出所：経済産業省「鉱工業指数」

### 評価ポイント

#### 家計調査報告(2019年4月)の結果

- 2019年4月の消費支出(二人以上の世帯)は、実質季調済の前月比で▲1.4%と減少した(図表1)。単月の振れを均していても、消費支出は2019年入り後に悪化している。  
※総務省公表の季節調整済実質指数は、家計簿改正の影響による変動を含んでおり、特に2019年入り後の水準が実態よりも高めにしている可能性がある。
- 品目別の内訳をみると(図表2)、2018年後半と比較して2019年入り後に減少した品目は、教育(▲6.7%)、諸雑費(▲4.5%)、光熱・水道(▲3.6%)、住居(▲3.3%)などとなっている。光熱・水道は、平均気温の高さや電気代の上昇が消費量を抑制したとみられるほか、諸雑費は株安などによるマインド悪化が影響した可能性がある。
- 一方で、教養娯楽は大型連休の影響もあり+3.2%と増加している。自動車が含まれる交通・通信(▲0.4%)、家具・家事用品(▲0.1%)は減少はしているものの、小幅にとどまっている。通常、マインド悪化局面ではこれら耐久財消費は抑制されやすいが、10月の消費税率引上げを控えた駆け込み需要が下支えしているとみられる。

#### 消費財出荷指数(2019年4月)の結果

- 2019年4月の消費財出荷指数は、季調済前月比+3.5%となった(図表4)。増税前の駆け込み需要を見越し、流通段階で在庫を積み増している可能性もあるが、総じて緩やかな増加基調を維持している。

#### 基調判断と今後の流れ

- 総合的にみると、消費の増勢はマインドの悪化などを背景に弱まっている。
- 先行きを展望すると、輸出・生産の悪化による雇用・所得環境への悪影響が予想されるものの、19年9月末にかけては駆け込み需要による消費増が見込まれる。10月以降は反動減が予想されるものの、政府による手厚い予算措置の効果もあり、消費の腰折れは回避できるだろう。